

情報収集について

災害時において、避難判断等のためには情報収集が重要です。以下の情報収集方法を参考に、早めの避難行動を心掛けましょう。

大田区からの情報収集

防災アプリ・防災ポータル

災害や避難に関する最新の情報を確認することができます。アプリをダウンロードもしくは、ポータルサイトにアクセスし、最新情報をご確認ください。



大田区公式 ツイッター (Twitter)

@city_ota



大田区公式 ホームページ

<https://www.city.ota.tokyo.jp/>



防災行政無線

電話応答サービス

防災行政無線からの放送内容をご自宅の電話等で確認することができます。
電話:050-5536-5105 (通話料は有料です)

区民安全・安心メール

<https://www.city.ota.tokyo.jp/seikatsu/chiki/bousai/bouhan/anzenmail.html>

あらかじめ登録されたメールアドレスに、防災や防犯に関する情報をメールで配信しています。



緊急速報メール(エリアメール)

大田区民のみなさん



TV デジタル放送 (dボタン)

土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

(気象庁) (以下、土砂キキクルという)
<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>
大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを確認できます。



土砂災害警戒情報(気象庁)

<https://www.jma.go.jp/jp/dosha/>



東京都水防災総合情報システム

http://www.kasen-suibo.metro.tokyo.jp/im/uryosui/tsim0103g_441102.html

呑川等の水位情報や雨量グラフなどを確認できます。



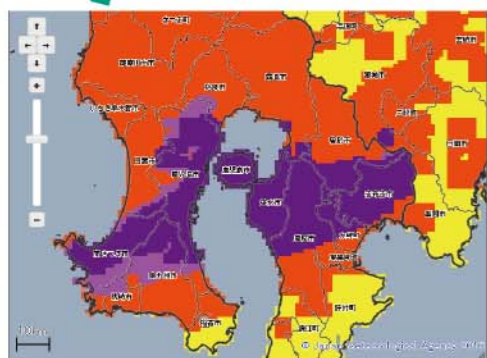
東京都下水道局「東京アメッシュ」

<https://tokyo-ame.jwa.or.jp/>

数時間前から現在の降雨状況・降雨量を150mの表示メッシュで公開しています。



関係機関からの情報収集



気象庁「土砂キキクル」から一部加工して作成

土砂キキクルは、土砂災害発生の危険度を「2時間先までの雨量等の予測値」を用いて5段階に色分けしたものです。情報は10分毎に更新されますので、随時確認し、土砂災害の危険度が高まっている場合は、土砂災害警戒区域外へ避難しましょう。

大雨警報(土砂災害)の危険度分布

高	災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険度	危険	【警戒レベル4相当】
	警戒	【警戒レベル3相当】
	注意	【警戒レベル2相当】
低	今後の情報等に留意	

避難のポイント

災害時に速やかに避難が出来るよう、以下のポイントを押さえておきましょう。

ポイント① 避難先と避難経路を確認しておく

避難にあたっては、「どこに」、「どのような手段で」、「どの経路で」避難するかを予め確認しておく、避難行動までがスムーズになります。また、避難先や経路については、災害の状況によって使用不可になるおそれがありますので、複数箇所を確認するようにしておきましょう。避難先については、大田区が開設する施設の他に、親戚や知人宅等を考えておくことで、早めの避難が出来ます。



ポイント② 非常用備蓄を準備しておく

避難先では、必ずしも食糧や飲料水等があるとは限りません。そのため、以下の例を参考に、日頃から食糧等を家庭で備蓄しておきましょう。また、避難時すぐに持ち出せるように下の例を参考に最小限の必需品を避難用のリュックサック等にまとめておくと、便利です。

◆懐中電灯・ヘッドライト

停電時や夜間の移動に欠かせない。



◆携帯ラジオ

小型で軽く、FMとAMの両方を聴けるものがよい。故障していないか定期的にチェックする。



◆予備電池・充電器

携帯電話、懐中電灯、携帯ラジオ用に、多めに用意しておく。



◆水

持ち運びに便利なペットボトル入りを。



◆救急医療品・常用薬

きず薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬、胃腸薬など。常用薬も忘れずに。



◆貴重品

預貯金通帳、健康保険証、免許証など。



ポイント③ 警戒レベルが発令されていなくても自主的に避難する

風水害時は、震災時と異なり、被害が局地的に発生するため、土砂キキクルや河川水位等を確認して、自らで判断し避難することが重要です。

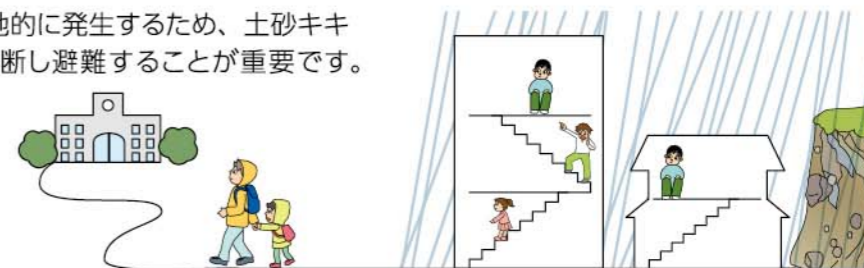
◆避難するタイミング

- 1 明るいうちに
- 2 公共交通機関が動いているうちに
- 3 暴風雨になる前に
- 4 異常を発見したら

※以下のことに注意!

- 急傾斜地(がけ)付近では……がけ崩れの兆候
- 河川付近では……水位の上昇

このような状況が確認できたら、直ちに避難してください!



立ち退き避難【基本】

- がけ崩れにより家屋が倒壊するおそれがあるとき
- 浸水が深くなる、または長時間継続するおそれがあるとき
- 河川氾濫のおそれがあるとき

垂直避難【やむを得ない場合の措置です】

万が一逃げ遅れたときや、土砂災害発生の危険が迫ったときは、自宅や近くの丈夫な建物の2階以上の崖の反対側へ避難する。

※大田区指定の水害時緊急避難場所は、原則、警戒レベル発令後に開設されます。事前避難をするためにも、区施設以外も避難先を考えておきましょう。